

児童の行方不明防止について

送迎準備～送迎

- ・児童の乗降時には、運転手は車から離れず、見守りを行う
- ・車まで誘導した職員はシートベルト着用まで確認する
- ・事業所に到着し降車させるときは、車内に残っている児童がいなければ必ず確認する
- ・児童を乗車させるときは、車のドアを開けるのは1か所だけとする
(別のドアから児童が勝手に降りないようにする)
- ・送迎車が複数台あっても目が行き届くよう、乗車は一台ずつ時間をずらして行う
- ・帰りの送迎で1便が出発し人数が減った時点で、児童を一部屋に集める
- ・家に送る際は、家の中に入ったことを見届ける
- ・児童が待ち合わせ場所ではぐれることのないよう、学校等への迎えの日や時間、その日に車に乗せる児童が誰かを十分に確認する

職員の危機意識

- ・緊張感を持ってしえんするため、行方不明防止のためのミーティングや研修を行う
- ・個々の児童の特性を理解し、興奮しないような接し方を職員間で共有する
- ・少しくらい目を離しても大丈夫だろう、多分〇〇へ行っただのだろうという思い込みを捨てる
- ・アセスメントや日常の支援で児童の興味を引くもの、好きな場所・ものなどの把握に努める
- ・ヒヤリハット報告の取組みを強化し、職員の危機意識を高める

～万が一に備えて～

- ・行方不明になった時の対応手順、連絡先一覧等を作成、周知しておく。
- ・行方不明になった時、関係機関に児童名や写真、特徴などの情報提供を行ってよいか
予め保護者に確認しておく（同意書など）
- ・児童の当日の服装などを撮影しておくなどの方法により、正確な情報を従業員間で共有する
- ・行方不明児の搜索等、当該事業所の従業員以外にも法人内での応援体制を整備しておく
- ・行方不明児の搜索等のため、他児の支援が困難となった場合の対応を検討しておく